



日本地球化学会ニュース

No. 261

June 2025

Contents

年会のおしらせ	2
● 2025年度日本地球化学会第72回年会のお知らせ (2)	
学会からのお知らせ	4
● Goldschmidt 国際会議2025のお知らせ	
● 2024年度地球化学若手会「春の研究会」実施報告	
● 2023年度若手スタートアップ奨励金研究報告	
● 鳥居・井上基金助成活動報告	

年会のお知らせ

●2025年度日本地球化学会第72回年会のお知らせ(2)

主催：一般社団法人 日本地球化学会

共催：一般社団法人 日本温泉科学会，一般社団法人 日本海洋学会，一般社団法人 日本鉱物科学会，一般社団法人 日本質量分析学会，一般社団法人 日本地質学会，日本大気化学会，日本微生物生態学会

後援：公益社団法人 日本分析化学会，公益社団法人 日本化学会

会期：2025年9月17日(水)～19日(金)

会場：東北大学・川内北キャンパス (B棟, C棟)

年会サイト：<https://www.geochem-conf.jp/>

交通：JR 仙台駅下車，仙台市地下鉄東西線川内駅下車，徒歩1分

※アクセス方法詳細については，下記の東北大学のサイトをご参照ください。

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/profile/campus/01/kawauchi/areaa.html>

宿泊：仙台市内に多数のホテルがあります。ホテルは混み合っておりますのでお早めにご予約ください。

内容：口頭発表及びポスター発表，学会賞記念講演，懇親会，日台シンポジウムなど。セッション編成の詳細については，決定次第お知らせいたします。関連イベントとして，9月16日(火)にショートコースを計画しています。

講演セッション：10件の「学会基盤セッション」と3件の「特別セッション」を開催します。各セッションのテーマは，以下の通りです。

【特別セッション】

S01 日台先端地球化学シンポジウム

S02 工学や農学と地球化学の接点

S03 プレナリーセッション

【基盤セッション】

G01 大気とその境界面における地球化学

G02 環境地球化学・放射化学

G03 海洋の地球化学

G04 初期地球から現在までの生命圏の地球化学

G05 古気候・古環境解析

G06 宇宙化学：ダストから惑星，生命へ

G07 素過程を対象とした地球化学

G08 地球深部から表層にわたる元素移動と地球の化学進化

G09 地球化学の最先端計測法の開発と挑戦

G10 地球化学全般（地球化学の融合セッション）

学生発表賞：きわめて優れた口頭・ポスター発表を行った学籍を持つ日本地球化学会会員に授与します。全学年の学生会員（学籍を持つ正会員を含む）が対象の学生優秀賞と，修士課程までの会員が対象の学生奨励賞を設定し，表彰式は学会最終日の閉会式の際に行います。学生発表賞を希望される会員は，講演申し込み時にエントリーしてください。なお，エントリーは講演申し込み時点の学生会員（学籍を持つ正会員を含む）もしくは入会手続き中の仮会員に限ります。学生発表賞を希望される方で学会入会手続きがまだの方は，早めに入会手続き（書類提出＋入金）を済ませてください。

スケジュール：

日付・日時	項目
6月上旬	年会サイトの公開
6月11日(水) 14時	講演申込及び要旨提出の受付，参加登録・懇親会申込の開始
7月16日(水) 17時	講演申込及び要旨提出の〆切
8月上旬	プログラムの公表
8月27日(水) 17時	参加登録の事前割引適用の〆切，託児室の利用申込〆切
9月10日(水) 17時	懇親会申込の〆切
9月16日(火)	ショートコース
9月17日(水)	年会1日目，夜間集会
9月18日(木)	年会2日目，年次総会，受賞講演会，懇親会
9月19日(金)	年会3日目，閉会式，学生発表賞の表彰

講演申込：講演申込は年会サイトのみで受け付けます。申込期間に入りましたら，年会サイトトップページ右上に「申し込み」ボタンが表示されますので，そこから申し込んで下さい。要旨提出も講演申込と同時にを行います。要旨原稿の提出を行わないと講演申込は完了しません。講演申込及び要旨提出は，6月11日(水) 14時受付開始，7月16日(水) 17時〆切を予定しています。〆切日時は延長しない予定です。なお，投稿する要旨の原稿は〆切日時までは修正可能ですが，〆切日時を過ぎた後は一切修正できません。講演要旨のフォーマット（PDF及び

Word) は年会サイトからダウンロードしてください。講演要旨の投稿の際には、抄録の他にも J-STAGE での検索用のテキストを入力する欄がありますので、お手数ですが要旨の本文を入力してください。また、年会サイトからの申込が困難な場合は、下記の年会事務局宛にメ切1週間前の7月9日(水)までにご連絡ください。

参加申込・懇親会申込：年会サイト右上の「申し込み」ボタンから申し込んでください。6月11日(水)14時から8月27日(水)17時までに参加登録をされた場合、事前割引が適用されます。それ以降は、通常の参加登録費となり、申込のメ切は9月10日(水)17時です。懇親会は9月18日(木)受賞講演会終了後、学内の大学生協で開催します。懇親会は会場の収容人数等の都合により、当日参加の受付ができない可能性があるため、参加申込と合わせて9月10日(水)17時までに申込をお願いします。収容人数に余裕がある場合は、年会サイトから懇親会の当日申込が可能となります。

参加登録費：

	一般 会員	学生 会員	一般・ 非会員	学生・ 非会員	学部生 (聴講のみ)
事前 参加登録	6,000円	2,000円	9,000円	5,000円	0円
参加登録	8,000円	3,000円	10,000円	6,000円	0円

*「会員」は日本地球化学会及び共催学会の会員を指します。参加申込直前に入会申込された方も会員扱いとします。なお、聴講のみの学部生は無料です。

懇親会費：

	一般	学生
懇親会費	6,000円	3,000円

お支払方法：参加登録時のお支払いは、年会サイト右上の「申し込み」ボタンからクレジットカードによるオンライン決済でお願いいたします。クレジットカードによるお支払いが困難な場合は、下記年会事務局にメ切の一週間前までにお問い合わせください。領収書は決済終了後、サイトからダウンロードできます。

プログラムの公表：プログラムは講演申込終了後、8月上旬に年会サイト上に公開予定です。

要旨集：本年度の年会では、年会サイトによる要旨集公開を基本とし、冊子体あるいは電子媒体(USBメモリなど)による要旨集の配布はいた

しません。要旨が必要な方は、年会サイトに公開してある要旨を事前にダウンロードしてご利用下さい。

託児室：年会会場では、託児室を準備しております。希望される方は8月27日(水)までに学会ホームページ経由でお申し込み下さい。

※詳細は年会実行委員会事務局(学会お問い合わせフォーム <https://www.geochem.jp/inquiry>)へお尋ねください。

インターネット接続：会場内はeduroamの無線LANの環境があります。このため、eduroamに加入している他機関の来訪者が、東北大学内のeduroamを利用して無線LANを利用することが可能です。eduroam加入機関の皆様は利用方法、アカウントを事前に各機関においてご確認ください。eduroamの詳細情報は次のサイトをご覧ください。 <http://www.eduroam.jp/>

併設展示：関連機器メーカーその他による展示会を併設する予定です。詳細については年会事務局にお問い合わせください。年会サイトの後援・出展のご案内と申込書(MS Word形式)をご参照、ご記入の上、年会事務局までe-mail及び原本の郵送でお申し込みください。

小集会：学会期間中の昼食時間小集会を行うことができます。希望されるグループは早めに年会事務局にお問い合わせください。

夜間集会：例年通り、初日セッション終了後にいずれかの講演会場で行われる予定です。詳細は決まりましたらご案内します。

総会：9月18日(木) 午後にマルチメディア教育研究棟(A05)2階講義室で開催します。

受賞講演会：9月18日(木) 午後、総会終了後に開催します。

閉会式：9月19日(金) すべてのセッション終了後、学生発表賞の表彰式等を行います。是非、ご参集ください。いずれかの会場で行われる予定です。詳細は決まりましたらご案内します。

以上が、年会会期中のご案内です。その他、年会に合わせて、次のようなイベントが予定されていますので、奮ってご参加ください。

2025年度日本地球化学会ショートコース

日程：9月16日(火)

時間：10時-18時(ナノテラス見学の時間次第で変更)

開催方式：現地＋zoom配信のハイブリッド
会場：東北大学・青葉山キャンパス
内容：講師講演＋ナノテラス見学会（＋懇親会）
参加費：会員無料，非会員1000円（学会へ振込，キャンセルでも返金なし）
申し込み：学会ホームページ上で申し込み
【発表に関する詳細・申込】
学会ホームページで公表
【その他問合せ】
学会ホームページで公表

その他

講演の変更・キャンセルについて：講演申込み切後の，講演の変更やキャンセルのご希望は，必ず発表希望セッションのコンピーナーと年会事務局の両方にメールでお知らせ下さい。

台風等自然災害に関する対応：

- ・9月16日（会期前日，午前7時時点）に，天候を考慮し，年会事務局実行委員長が中止・続行を判断します。
- ・結果は年会サイト及びe-mailにて連絡します（参加者メルリストを作成して連絡，学会メルリストにも連絡）。
- ・開催しなかった場合でも要旨はJ-STAGEにて公開され，引用可能とします。ただし，希望者には，講演のキャンセルを可能とします。この場合にはJ-STAGEに公開しませんので，年会事務局にメールでお知らせ下さい。
- ・開催しなかった場合でも参加費は払い戻されません。ただし，懇親会費は一部費用を差し引いて残りを返却します。

年会事務局：

〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
東北大学理学部地学棟
2025年度日本地球化学会年会実行委員会
委員長 掛川武
お問い合わせ：2025LOC@geochem.jp
（年会実行委員長 東北大学 掛川武）

学会からのお知らせ

● Goldschmidt国際会議2025のお知らせ

Goldschmidt国際会議とは，ヨーロッパ地球化学連合と米国地球化学会が主催，日本地球化学会が共催す

る国際学会です。地球化学関連分野では参加者数が最大規模で，昨年の米国シカゴで開催されたGoldschmidt国際会議2024では，参加総数が約2,500人超でした。今年のGoldschmidt国際会議は，7月6日（日）から11日（金）の期間，ハイブリッド形式で開催されます。対面開催の会場はチェコ共和国の首都プラハのプラハ会議センターです。ユネスコ世界遺産の「プラハ歴史地区」がある古都プラハで開かれ，オンラインでの参加も可能です。

発表者と早期参加登録，およびEarly Career Workshopなど各種ワークショップの参加登録は5月21日ですすでに締め切られています。参加登録費については，日本地球化学会会員は非会員より安く設定されています。以下のGoldschmidt国際会議のウェブページにて，会議の概要をご覧ください。例年同様，会場内に日本地球化学会ブースが設置されますので，皆様の交流や憩いの場などにご利用ください。

Goldschmidt国際会議ウェブページ：

<https://conf.goldschmidt.info/goldschmidt/2025/meetingapp.cgi/Home/0>

日本地球化学会ブース展示情報（13番ブース）：

<https://conf.goldschmidt.info/goldschmidt/2025/meetingapp.cgi/Session/7839>

参加費（対面）：一般690USD，シニアおよび学生425USD，オンライン：一般490USD，シニアおよび学生320USD

いずれも会員価格です。日本地球化学会の会員はPartner societyとして上記会員価格で参加できます。非会員価格は上記と異なります。

Goldschmidt国際会議：7月6日（日）～11日（金）

問合せ先：広報委員会 prc@geochem.jp（@を半角に変えて下さい）

（広報委員 Goldschmidt 会議担当 黒田潤一郎，小畑元，広報幹事 山本順司）

● 2024年度地球化学若手会「春の研究会」実施報告

2024年度地球化学若手会「春の研究会」は，下記の通り実施されました。

主催：地球化学若手会

共催：日本地球化学会

会場：信州大学理学部（松本キャンパス）

日程：2025年3月3日（火）・4日（水）

概要

昨年度の開催以降、学生や若手研究者が中心となり若手会の活動について議論を進め、2024年度金沢年会において「地球化学若手会」として活動を開始しました。2024年度の研究会については若手会事務局にて相談した結果、信州大学理学部（松本キャンパス）にて2日間の開催が決定しました。若手会会員から「年会では同位体に関する発表が多いが、そもそも同位体について知らないので教えてほしい」という意見があったため、同位体に関するミニ講義（講師も若手会メンバー）を企画しました。また、参加者同士の自己紹介を兼ねて、参加者は原則ポスター発表または口頭発表を必須としました。

実施内容

【1日目】

- ・ミニ講義：同位体の基礎を学ぼう！
 - ①同位体の測定からわかること
（講師：栗原かのこさん）
 - ②同位体比計測の基礎
（講師：仁木創太さん）
 - ③基礎から学ぶ生元素同位体比
（講師：浦井暖史さん）
- ・特別講演：海水／鉄マンガ酸化物界面のレアメタル地球化学とその先へ～全ては若手会から始まった!?～
（柏原輝彦先生、海洋研究開発機構）
- ・ポスター発表（24件）
- ・懇親会（大学生協）

【2日目】

- ・口頭発表（9件）
- ・企業説明会（サーモフィッシャーサイエンティフィックジャングループ様）：同社の企業説明や同位体分析について紹介して頂いた。

ポスター発表を含めて1会場で実施した。対面開催を基本としつつ、ZOOMによるオンライン配信も行った。なお、開催期間中に大雪による計画運休が発表されたため、2日目のスケジュールを午前中のみに変更した。

参加者

現地参加数は40名（学部生14名、修士課程10名、博士課程4名、ポスドク6名、その他6名）懇親会参加者は34名であった。オンライン参加者は数名程度

であった。

会計報告

費用設定

- 参加費：なし
- 懇親会費：1,000円

収入

- 繰越金：12,000円
- 鳥居・井上基金：100,000円
- 懇親会費：34,000円

支出

- 事務費（印刷費、文具）：6,500円
- 懇親会：37,701円
- 旅費支援（5名）：84,068円
- 茶菓子代：10,331円

収支：+7,400円（来年の若手会へ繰越）

本会の実施にあたって、遠方からの参加者の負担軽減のために旅費支援を行いました。これらの原資には鳥居・井上基金を活用させて頂きました。

アンケート結果について

研究会実施後にGoogle Formを用いてアンケートを実施し、24名の方から回答がありました。ご協力ありがとうございました。以下、簡単に紹介させていただきます。

【開催時期・開催形式】

今回の開催時期については9割以上の方が「良い」「おおむね良い」との回答でした。次回の開催時期についても「今年度のままで良い」が9割以上となりました。

開催形式については「1泊2日の通い形式（今回と同様）」が7割を占めたほか、「日帰り」「合宿形式」という意見も1割ほど回答がありました。

【今後の企画】

今回の特別講演や企業説明会に対する満足度は非常に高く（「良い」「おおむね良い」合わせて8割以上）、口頭発表、ポスター発表の時間配分についても好評でした。

来年度の企画の要望として、「同位体比以外の地球化学について」「同位体比を用いた具体的な応用例について」「英語プレゼン、研究費取得、文献調べのコツのようなテクニク的な話」という意見がありました。

来年度の若手会活動について

来年度の研究会は名古屋大学にて開催する予定です。開催時期については今年度と同様に2月末～3月初旬を予定しています。詳細につきましては、決まり次第ご案内します。また、2025年度の仙台年会でも若手研究者を対象としたイベントを行う予定ですので、ぜひ仙台でお会いしましょう。

地球化学若手会では、若手会員を募集しています(地球化学会の非会員でも参加可能です!)。会員になると若手会メーリスに登録されますので、ぜひ周りの学生に声をかけて貰えれば幸いです。

総括

今回は地方大での開催のため、どれだけの参加者数になるか不安でしたが、蓋を開けてみると予想を超える人数が集まり、若手会に対する期待を実感しました。今回は新しい試みとして、年会では聞きにくい基礎的な話について、同世代(?)の若手研究者が講師となってミニ講義を行いました。また、企業として唯一参加して頂いたサーモフィッシャー様には、自社の紹介だけでなく、同位体比に関するレクチャーや技術資料の提供など行って頂きました。学生にとっては企業の技術者と関わる良い機会になったと思います。

研究会の前日から松本では雪が降り、2日目には関東方面の特急が計画運休するアクシデントに見舞われましたが、参加者の皆様の協力もあり、何とか無事に全プログラムを終えることができました。次回の名古屋大学でお会いできることを楽しみにしております。

最後に、若手会の活動を再始動するにあたり、金沢年会にて何度かお話しする機会を頂きました。その中で本当に多くの方からお声がけ頂き、運営の協力やアドバイスのご意見を沢山頂きました。これらの意見は事務局メンバーにも共有しており、今後の活動に生かしたいと強く思っています。また、本会への参加にあたり、所属する研究室などから旅費支援を頂いたと参加者から伺っています。若手会参加に対してサポートして頂き、この場を借りて御礼申し上げます。地球化学会の皆様には、今後とも変わらぬご支援ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

若手会事務局メンバー (2025年3月時点)

浦井暖史 (信州大・助教)

栗原在 (東工大・M2)

角南沙己 (東北大・M1)

寺内大貴 (東大・D2)

寺門寛 (京大・M2)

仁木創太 (名大・学振PD)

西村大樹 (東大・D3)

平川祐太 (JAMSTEC・学振PD)

深谷創 (金沢大・M2)

松本拓也 (信州大・B3)

柳澤良亮 (信州大・B4)

山口瑛子 (JAEA・研究員)

Lopez Garcia Karina (東工大・D1)

2024年度LOC:

浦井暖史, 松本拓也, 柳澤良亮 (信州大)

(文責: 浦井暖史)



ミニ講義



ポスターセッション



懇親会での記念撮影

● 2023年度若手スタートアップ奨励金研究報告

課題名: 深部メタンを起点とした表層水圏におけるメタン酸化プロセスと水圏生態系への影響評価

研究期間：2023年9月～2024年9月

浦井暖史（信州大学理学部理学科）

この度、日本地球化学会「若手スタートアップ奨励金」の第1号として採択して頂きました。本研究は博士課程から継続して取り組んでいるテーマであり、これまで数多くの共同研究者の方に支えて頂いております。この場を借りて感謝申し上げます。

研究対象である諏訪湖は、糸魚川-静岡構造線上に位置する断層湖ですが、堆積速度が非常に速いため、湖底には370 m以上の堆積層が発達しています。この堆積層中の帯水層には多量のメタンが埋蔵されており、一部は断層などを通じて地表まで湧出しています。湖底から湧出するメタンは放射性炭素を含まないことが分かっており（ $\Delta^{14}\text{C} < -972.1\text{‰}$ ）、湧出直上の湖水の溶存無機炭素（DIC）も放射性炭素濃度が低くなっている（ $\Delta^{14}\text{C} = -630.6\text{‰}$ ）ことから、深部由来の炭素の影響を強く受けていることが明らかになっています（Urai *et al.*, 2022 ACS Earth and Space Chem）。また、DICに含まれる深部由来の炭素は光合成を通じて藻類にも伝搬していることが示されており（ $\Delta^{14}\text{C} = -110.3\text{‰}$ ）、深部由来の炭素が表層水圏の生態系に関わっていることが示唆されました。本研究では、湖全体に対する深部由来のメタンの影響を解明するため、湖内全域を対象とした採水および諏訪湖に生息する水生生物（ユスリカ幼虫、ワカサギ、オオクチバス）を対象した放射性炭素分析を行いました。

諏訪湖内8ヵ所にて表層水に含まれるDICの放射性炭素を測定した結果、活発なメタン湧出地付近を除くと $\Delta^{14}\text{C} = -111.0 \sim -97.0\text{‰}$ の範囲であることが示されました。これは主要流入4河川の値（ $\Delta^{14}\text{C} = -91.8 \sim -60.8\text{‰}$ ）よりも低いことから、深部由来の炭素は湖水全体に対して影響を与えていることが示唆されました。また、水生生物についても放射性炭素を測定した結果、ユスリカ幼虫は $\Delta^{14}\text{C} = -117.8 \sim -103.8\text{‰}$ （ $n=3$ ）を示しました。これは湖水DICの $\Delta^{14}\text{C}$ の範囲内であり、湖内生産由来の餌資源を捕食していることを示唆しています。一方で、ワカサギは $\Delta^{14}\text{C} = -98.0 \sim -89.1\text{‰}$ （ $n=5$ ）、オオクチバスは $\Delta^{14}\text{C} = -98.9 \sim -82.1\text{‰}$ （ $n=5$ ）となり、湖水DICの範囲よりも高いことが示されました。これはワカサギやオオクチバスが湖内生産由来の餌資源以外に、放射性炭素に富んだ陸域起源の餌資源を捕食していることを示唆しています。この陸域起源の餌資源については、河川の付着藻類などの河川由来の餌資源ではないかと推測していま

す。

本研究の結果から、諏訪湖全域におけるDICに対する深部炭素の影響について評価することができました。また、得られた ^{14}C データを用いることで、諏訪湖の水圏生態系における餌資源の推定にも活用できることが明らかになりました。これらの結果についてはJpGUや地球化学会年会でも報告させて頂いており、現在は論文として公開するために執筆を進めております。

私は2023年3月に信州大学理学部に着任しましたが、着任時は使える装置も部屋もなく、文字通りゼロからの出発でした。そのような状況の中で、地球化学会からのメリスで本奨励金制度が始まったことを知り、すぐに応募した次第です。着任早々で科研費も持っていない状況でしたので、採択通知が届いた時は本当に嬉しかったと共に、少し安心したことを覚えています。末筆になりましたが、審査に関わった方をはじめ、本奨励金に関わったすべての関係者の方に感謝申し上げます。

●鳥居・井上基金助成活動報告

助成内容：A.研究集会助成 第1回日本年代測定ワークショップ（Japan Chronology Workshop）開催

会場：名古屋大学宇宙地球環境研究所

期間：2024年12月13日（金）

伊藤健吾（東京大学大学院理学系研究科）

ワークショップの概要

本ワークショップは、放射年代測定法に関する基礎的な内容に重点を置いた発表を行う場です。専門家だけでなく、これから年代測定法に携わる可能性のある研究者や学生の方々にも広く参加を呼びかけました。本ワークショップの開催は、2023年度から開始した地球惑星科学連合大会における年代測定セッション「ハイブリッド年代学」で、多くの研究者や学生から年代測定に対する関心とその基本原理の理解に対する需要が寄せられたことを背景としています。本年度より初めて企画された本ワークショップを年代測定法に関する研究交流の場としても今後活用していきたいと考えています。

会場は名古屋大学宇宙地球環境研究所を使用し、単日の講義形式で開催しました。鳥居・井上基金から頂いた助成金は、講義を担当して頂く講師の旅費補助に主に使用しました。

研究会の内容・感想

初開催となる本ワークショップでは、参加者数が未知数であることから不安もありました。しかし、最終的には参加登録者44名（うち学生24名）（図1a）に加え、講演者7名を迎え、総勢50名規模の大きな集会となりました。特に、参加者の約半数がこれから年代測定に取り組もうとしている学生で占められたことから、初学者にとって学びの場を提供するという当初の目的を達成できたと感じています。ワークショップ後のアンケートでは、「年代測定を始めようと考えている自分にとって非常に参考になる内容でした」との声も寄せられ、一定の成果を実感しています。

一方、大学や企業の研究者の参加も全体の約4割を占め、年代測定が地球惑星科学を研究する上で非常に重要な分野であることを改めて認識する場ともなりました。当日のワークショップは、若手研究者や未来を担う学生を中心に、講演者7名による講義形式で進行了しました。プログラムは基礎編（第1部～第4部）と応用編（第5部～第7部）の二部構成とし、以下の内容で行いました（敬称略）。

- ・第1部：放射性同位体とは（京都大学，金鐵祐）
- ・第2部：年代測定の原理（東京大学，高橋慶多）
- ・第3部：ウラン-鉛年代測定法の基礎（名古屋大学，仁木創太）

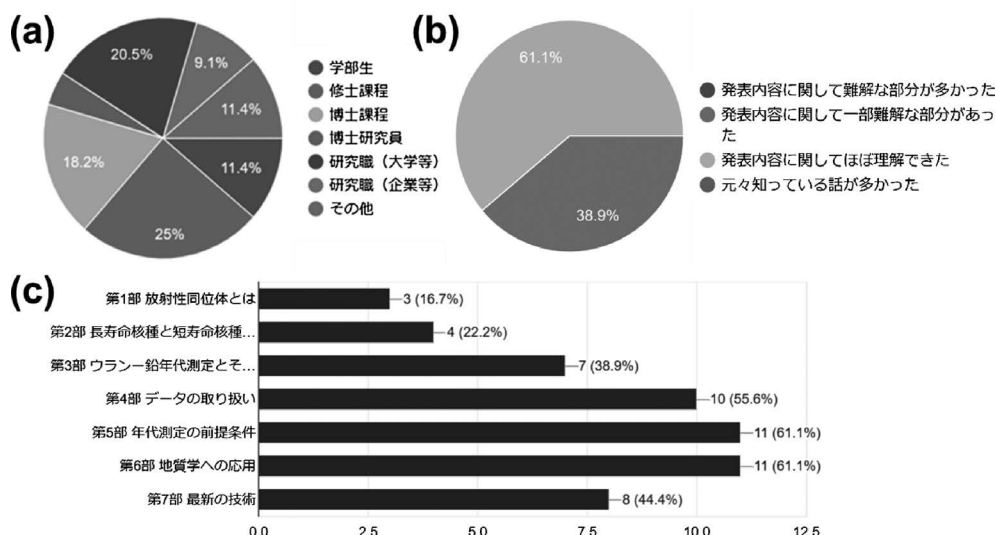


図1. (a) 参加者の区分，(b) 発表内容の難易度に関して，(c) 本ワークショップで関心のあった分野（(b)，(c)については事後アンケート結果より抜粋）。（カラーの図は学会ウェブサイト助成金交付記録 <https://www.geochem.jp/fund/issuance-records> に掲載）



集会当日の様子

- ・第4部：データの取り扱い（京都大学，工藤駿平）
- ・第5部：年代測定的前提条件（東京大学・京都FT，岩野英樹）
- ・第6部：地質学における年代データの活用（日本大学，長田充弘）
- ・第7部：最新の技術とトピック（東京大学，伊藤健吾）

講演者の皆さまには，多忙の中で発表資料の準備や発表練習にご協力頂きました。この場を借りて，深く感謝申し上げます。各講義では，発表25分，質問15分の形式を採用し，ディスカッションに重点を置きました。多くの講義で質問時間が足りなくなるほど活発に議論が行われ，会場は熱気に包まれていました。集会後のアンケートでは，「初めてのワークショップに

期待以上の学びがあった」といった喜びの声が寄せられ，講義内容も難解すぎず，かつ平易になり過ぎない適切なレベルであったとの評価を頂きました（図1b）。

特に，参加者の関心の多くは実際のデータの取り扱いやその応用例に向けられていました（図1c）が，基礎原理の理解なくして応用の発展は今後ないと考えています。そのため，本ワークショップでは基礎編と応用編の二部構成を重視し，今後もこの構成を維持しつつ，さらに多くの方にとって有意義な場となるよう努力を続けてまいります。最後に，本ワークショップの開催を支援していただいた鳥居・井上基金に深く感謝申し上げます。今後も本会を継続し，年代測定法の研究と普及に貢献していきたいと考えています。

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会，書評，研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上，電子メールでの原稿を歓迎いたしますので，ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2025年9月頃を予定しています。ニュース原稿は8月初旬までにお送りいただくよう，お願いいたします。また，ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会）

小木曾哲

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

京都大学大学院人間・環境学研究科

Tel: 075-753-2918; Fax: 075-753-2919

E-mail: news-hp@geochem.jp

山本順司

〒819-0395 福岡市西区元岡744

九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門

Tel: 092-802-4215

E-mail: news-hp@geochem.jp